

2024 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横浜市立本宿中学校] 担当教諭名 [矢嶋 優樹] (全学年有志 13名)
 相手国・地域 [ウガンダ]
 海外学校名 [Kasangula Talent School] 担当教諭名 [Jessy Sserwadda]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
		課外活動	アートマイル国際協働学習プロジェクト

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	共につくる未来
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	交流の中で、SDG15番「陸の豊かさを守ろう」をテーマに議論ができ、私たちに共通してできることとして植樹をしていきたいとなった。 そこで、未来に向けて互いに手を取り合いながら中央の土は、それぞれ日本は黒土、ウガンダは赤土で苗を植える絵に加え、多様性の象徴でもある虹を描き加えた作品となった。



■今回の取組の成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を通して海外に興味をもち、進路にも役に立った。 学校内での異学年交流の機会になった。 アートマイルを中心にJICAや大使館など様々な関係機関に繋がる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 有志生徒のみの参加となったので学校全体を巻き込んだ活動を行いたい。 壁画制作や英語前提でのコミュニケーションなど教員側でやれる人が限られる。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
・相手の文化を知ろうとする意識が非常に高くなった。生徒の振り返りの中で「やっぱり自分が調べて情報を集めるのもいいし、現地に行った人から話を聞くことも貴重なことだと思ったし、話を聞いてワクワクしました。現地の人たちとの交流もしてみたいなと思った。」などという記述があった。	・今年度は昨年度に続き大使館訪問に加え、JICAへの訪問や来校など様々な関係機関に繋がる事ができた。これを学校全体を巻き込んでの活動にしたいと考える。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 ～ 8月	ウガンダという国そのものと、SDG15について、調べ学習を行った。文化や諸問題について再認識する機会をもった。JICAへの訪問も行うことができた。	積極的にインターネットなどでSDGsや相手国について調べていた。疑問に思ったことは、フォーラムを通じて、質問をすることができた。	課外活動
共有 相手と意見交換	9月 10月	スライドのやり取りを通して、同じ問題を抱えている場面や異なる問題があることを共有することができた。	調べたことについて関心をもって聞いてもらえ、逆に自国との相違点を考えながら聞くことで課題の解決に必要なことは何かを考えることができた。	課外活動
融合 メッセージ作成	11月 12月	学んだことを踏まえてメッセージの発案および調整を行った。	「陸の豊かさも守ろう」を通して世界がどうなっていきたいかをテーマに考えることができた。	課外活動
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	双方で意見を出し合い、壁画のデザインを決定した。その後、半分ずつ両校で壁画の制作を行った。	一生懸命に制作する様子が見られた。制作していく中で、ウガンダのことをより身近に感じ、さらに調べてみたいという気持ちを持っていた。	課外活動
評価 振り返り 自己評価	3月	完成した壁画が届き、それを踏まえた振り返りを行った。JICAの出前講座を活用し、その時の経験やウガンダで何が起きているのかについて学べた。また、壁画を大使館に持っていく予定。	海外の文化、SDGs双方について考えを深めたり、実際に行動していきたいと考えたりしていた。来年度以降も可能ならば取り組みたい様子だった。	課外活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	今年度は相手校に加え、大使館や、JICAとの繋がりが増え、世界で起こっていることを考える機会が増え、様々な人と関わり合いながら学ぶことができた。
主体的に考え行動する力	5	調べ学習を通して相手国や自国を知り、相違点を考えるきっかけとなった。また「今年も大使館訪問をしたい」など実際に住んでいる人の生の声を聴きたいと思う生徒が多く主体的に取り組むことができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	SDGsを通して行ったが前提知識が少なく、調べたことを紹介、共有、共感はできたが、それを批判的に考察するには時間と相手国とのコミュニケーションの少なさを感じたので、今後より発展させていきたい。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	今年度はフォーラムを活用した文章でのやり取りのみになってしまったので対話が難しかったが昨年度から連続で参加している生徒も多く相手の立場に立つことができた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	SDGsで調べたことをテーマに、多様性を考えながら未来に向けて木を植えるという作品をつくることができ、本当の意味での国際理解に向けた取り組みの第一歩を踏み出すことができた。